

「カイ・フランク展 時代を超えるフィンランド・デザイン」開催のお知らせ



大分県立美術館では、4月25日（土）より「カイ・フランク展 時代を超えるフィンランド・デザイン」を開催します。つきましては以下に展覧会概要をお知らせします。

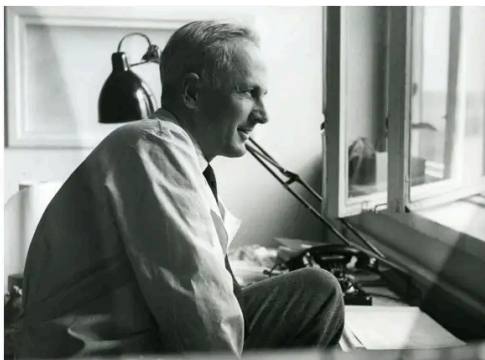
開催概要

フィンランドを代表するデザイナー、カイ・フランク（1911-1989）。人々の暮らしに寄り添い、社会的な課題を解決するデザインを目指したフランクは、「フィンランド・デザインの良心」と呼ばれています。徹底した機能性とシンプルな美しさを追求したフランクは、ガラス器の「カルティオ」や陶器の「キルタ」、後継の「ティーマ」などを生み出し、それまでのデザインのあり方を一新しました。そのデザイン哲学は今日まで受け継がれています。

本展はヘルシンキ建築&デザイン・ミュージアムのコレクションを中心に、ガラス器、陶磁器などの代表作、ファブリック、スケッチ、写真や映像250点以上を展示。初期から晩年までの作品と仕事の全貌を明らかにします。また日本の文化に惹かれ、3回の来日を果たしたフランクの足跡や、彼に影響を受けたデザイナーらの作品も紹介します。時代を超えて今なお愛されるカイ・フランクの作品と、彼のデザインを支える思想に迫る大回顧展です。

全国巡回初会場、九州で唯一、大分での開催です。

カイ・フランク（Kaj Franck 1911-1989）とは



アラビア製陶所でのカイ・フランク 1953 年
Photo: Pietinen ©Architecture & Design Museum Helsinki

北欧デザインを代表する中心的なデザイナーであり、シンプルで生活に取り入れやすい食器の提案によって、その発展に大きな影響を与えました。フランクは戦後の物資不足や住宅難という社会課題に対し、多用途で積み重ね可能な食器「キルタ」シリーズを考案し、高価で場所をとる従来のテーブルウェアに革命を起こしました。また、機能性と普遍性を追求し、「必要な装飾は色だけ」と余計な装飾を削ぎ落した彼のミニマルで暮らしに寄り添うデザイン哲学は、時代を超えて現代にも深く根付き、世界中で愛されています。

みどころ1

カイ・フランクのデザイン哲学

機能主義に基づくシンプルでそぎ落とされたデザインや幾何学的形態を追求し、安価でありながら良質な製品を多くの人に届けるというフランクのデザイン哲学を、250点以上の作品を通じてご覧いただきます。



左：《1621》（左）1955年、《1610》（右）1954年 カラフェ ヌータヤルヴィ・ガラス製作所
中：《キマラ（カクテル）/2744》タンブラー 1953年、《トイヴェ（希望）》パッケージ 1955年 ヌータヤルヴィ・ガラス製作所
右：《クレムリン ケット（クレムリンの鐘）/KF500》1957年カラフェ ヌータヤルヴィ・ガラス製作所

すべて Photo: Rauno Träskelin ©Architecture & Design Museum Helsinki

みどころ2

代表作《キルタ》

フランクが手がけた代表的なテーブルウェアシリーズであり、フィンランド・デザインの到達点のひとつとされている《キルタ》と、その後継のシリーズである《ティーマ》を、インスタレーションを交えて展示します。



《キルタ(ギルド)》シリーズ 1963年アラビア製陶所
Photo: Rauno Träskelin ©Architecture & Design Museum Helsinki

みどころ3

多彩なアートガラス

フランクは、シンプルで機能的なガラス製品をデザインしていた一方で、芸術作品としてのアートガラスも数多く生み出しました。フランクがガラス職人らと共に技法を開発して制作したこれらの作品は、ガラスの造形に新しい表現をもたらしました。



《KF486》ゴブレット 1969年 ヌータヤルヴィ・ガラス製作所
Photo: Rauno Träskelin ©Architecture & Design Museum Helsinki



プレート 1979年 ヌータヤルヴィ・ガラス製作所
Photo: Rauno Träskelin ©Architecture & Design Museum Helsinki

みどころ4

初期の作品

機能的でミニマルなデザインで知られるフランクですが、さまざまなデザインの分野で短期の仕事を重ねていた20代から30代にかけては、具象的でおとぎ話のようなロマンチックな要素を含む作品を制作していました。あまり知られていない、初期の木製玩具やプリント生地などの仕事も紹介します。



《デュット(女の子)》(左)、《ボイカ(男の子)》(中央)、《シルクス
ティレホーリ(サーカス座長)》(右) 木製人形 1945年
©Architecture & Design Museum Helsinki

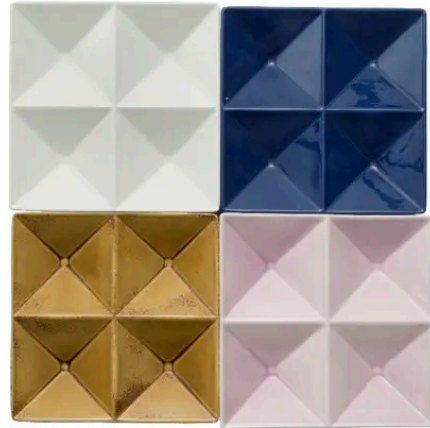


《ブトゥキントコ(セリ草の谷間)》複製プリント生地 1948年
アルテック(オリジナル)
Photo: Rauno Träskelin ©Architecture & Design Museum Helsinki

みどころ5

カイ・フランクと日本の関わり

フランクは、1956年の来日を皮切りに三度の来日を果たしました。本展の開催に際して新たに公開された来日時資料をもとに、従来の研究からさらに踏み込んで、日本でのフランクの足跡をたどります。また、禅の文化や日本の伝統工芸のデザインの影響が見られる作品を、日本の工芸家たちの作品とともに紹介します。



《KF1》サービングプレート 1957年 アラビア製陶所
Photo: Rauno Träskelin ©Architecture & Design Museum Helsinki

カイ・フランク展記念アイテム

イッタラとのコラボレーションにより、展覧会記念アイテムが登場しました。底面に、展覧会限定のボトムスタンプが刻印されています。



カイ・フランク展記念アイテム

「ティーマ マグ 0.3L」(左)

金額：3,960円(税込) ※数量限定

カラー：ウィンテージブルー、リネン

撮影：山本倫子



カイ・フランク展記念アイテム

「カルティオ カラフェ 950ml」

金額：20,900円（税込）※数量限定

カラー：シーブルー

撮影：山本倫子

展覧会名：カイ・フランク展 時代を超えるフィンランド・デザイン

Kaj Franck Retrospective -Timeless Finland Design

会 期：2026年4月25日(土)～6月14日(日) ※休展日なし

時 間：10:00～19:00 ※金曜日・土曜日は20:00まで(入場は閉館の30分前まで)

会 場：大分県立美術館 1階 展示室A

観覧料：一般 1,500円 / 高校生 1,200円

- ・中学生以下は無料。
- ・大分県芸術文化友の会 ひび KOTOBUKIとTAKASAGOは無料。
- ・障がい者保健福祉手帳等をご提示の方とその付添者（1名）は無料。
- ・学生の方は入場の際、学生証を提示。

主 催：公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団・大分県立美術館、ヘルシンキ建築&デザイン・ミュージアム、朝日新聞社

共 催：TOSテレビ大分、大分合同新聞社

協 賛：NISSHA

特別協力：IITTALA

後 援：フィンランド大使館、大分県、大分県教育委員会、NPO 法人大分県芸術振、西日本新聞社、毎日新聞社、NHK大分放送局、エフエム大分、NOAS FM

関連イベント

講演会「カイ・フランク、3度の来日～何を見て、何を撮り、何を感じたのか～」

初公開の資料で明らかとなったカイ・フランク来日の詳細と、彼がみた日本や工芸家との交流について、本展「カイ・フランクが見た日本」の章を監修した立花昭氏にお話しいたできます。

講師：立花昭（岐阜県現代陶芸美術館 学芸員）

日時：2026年4月25日（土） 14：00～15：30

会場：大分県立美術館 2階 研修室

参加費：無料（要展覧会観覧券）

定員：80名

※当館ホームページの申込フォームよりお申し込みください。

※申込受付は先着順となります。

※定員一杯になり次第、申込受付を終了します。

ギャラリートーク「カイ・フランクの世界を作品からひも解く」

長年北欧デザインの魅力を発信してきた吉田安成氏と共に本展を巡り、カイ・フランクが生み出したプロダクトの魅力に迫ります。

講師：吉田安成（ELEPHANT代表）

日時：2026年5月5日（火・祝）、5月6日（水・振休） 各日14：00～15：00

会場：大分県立美術館 1階 展示室A

※予約不要・要展覧会観覧券

学芸員による見どころツアー

開催日：2026年4月29日（水・祝）、5月2日（土）、5月3日（日・祝）、5月4日（月・祝）、5月23日（土）、6月14日（日）各日14:00～14:30

会場：大分県立美術館 1階 展示室A

※予約不要・要展覧会観覧券

※関連イベントの予定は変更になる可能性があります。最新情報は当館ホームページにてご確認ください。

開会式およびメディア向け内覧会のお知らせ

2026年4月25日（土）開会式 9:15～9:45 内覧会 9:45～10:30

ご参加いただける方はお名前、ご所属、参加人数、電話番号をご記入の上、E-mailにて info@opam.jp までお申込みください。

カイ・フランク展 時代を超えるフィンランド・デザイン WEBサイト

お問合せ：公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団 大分県立美術館

学芸企画課（展覧会担当）武関・吉峰

管理課広報担当 安東・山口

E-mail:info@opam.jp